

仏語・仏語圏文化コース

科目名	フランス・オラル Ia		担当者	アルベリック・ドリブル リュシー・ジュリアン	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・4
授業の目標	<p>覚えた文法基礎や単語を生かし、フランス語を聞き取れるようになることと会話のコツを身に付けていくことがこの授業の狙いです。</p> <p>会話を CD で聴いて、質問に答えます。文法説明や練習の後に、ディスカッションやロールプレイに挑戦します。すべてのテーマは日常生活に必着しているので無理なく無駄なく勉強します。</p> <p>教科書にはビデオと DVD-Rom が付いているので、家でもパソコンで楽しく学ぶことができます。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	挨拶、初対面 1-2課		1	夏休み、葉書、行事19-20課	
2	質問する、メール3-4課		2	してはいけないこと 21課	
3	物の位置、部屋の中 5課		3	仕事を探す 22-24課	
4	デスクリプション6課		4	プレゼントを選ぶ23課	
5	色や洋服7-8課		5	まとめ2	
6	部屋を探す9課		6	趣味、休み25-28課	
7	道を尋ねる、教える 10課		7	田舎暮らし 26課	
8	旅行代理店にて11-12課		8	これからの予定27課	
9	まとめ1		9	思い出、初恋29-31課	
10	電車に乗る 13課		10	事故のレポート 32課	
11	日常生活 14課		11	天気33課	
12	週末の過ごし方15-16課		12	将来の話34-35課	
13	食生活 17課		13	まとめ3	
14	昨日したこと18課		14	ミニ劇	
15	試験の準備と試験		15	試験の準備と試験	
教科書	<i>Le nouveau TAXI 1</i> , Capelle / Menand, Hachette 2008				
評価方法	出席数や授業参加の熱意は、(50%)、課題、ミニテスト、試験(50%)				
特記事項	週二回というやや早いペースで進みますので、毎回参加することが重要です。				

科目名	フランス・オラル Ib		担当者	アルベリック・ドリブル ヴァンサン・ピリウー	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・4
授業の目標	他の授業で覚えた文法などを生かして、シンプルな会話ができるための表現や語彙を身に付けていきます。言葉を学びながらフランス人の生活ぶりやフランス語の楽しさを発見するのがこの授業の狙いです。基本的な表現を習って、リスニングや会話の中ですぐ使います。ロールプレイや会話作りもします。教科書は日本人学生向けなので、日常生活から取ったテーマを中心に勉強していきます。				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	発音、教室で使う表現、挨拶	1	前期の復習		
2	自己紹介、数、つづり	2	所有を表す、物を借りる		
3	ある人について尋ねる、会話	3	ある場所について説明する		
4	仕事について話す	4	道を尋ねる、教える		
5	何語を話すか言う、会話	5	EVALUATION		
6	知っているかを聞く、国籍	6	子レピ、読書、音楽		
7	好きなものを言う	7	週末の過ごし方、頻度		
8	何をするのが好きかと言う	8	習慣について話す、interview		
9	したいこと、その理由	9	家族について話す		
10	比較、人のデスクリプション	10	過去の出来事について語る(1)		
11	年齢、学年、専攻	11	どこに行くか尋ねる、答える		
12	時間割について話す	12	過去の出来事について語る(2)		
13	持っている物について話す	13	何かに誘う		
14	ミニ劇や映画	14	よく行く場所について話す		
15	前期試験の準備、小テスト	15	後期試験の準備、テスト		
教科書	SPIRALE、Hachette (CD付)、15課まで(予定)				
評価方法	出席数や授業参加の熱意は、(50%)、課題、ミニテスト、試験(50%)				
特記事項	週二回というやや早いペースで進みますので、毎回参加することが重要です。				

科目名	フランセ・オラル II a		担当者	エリック・ボグナール	
コース・学年	仏語・2年	必・選	必	期間・単位数	通年・4
授業の目標	Le but du cours de Français Oral IIa est de donner la possibilité aux étudiantes de maîtriser la compréhension du français de la vie quotidienne parlé rapidement et de participer à des conversations relativement complexes. Les conversations du manuel sont d'abord étudiées sans support écrit, puis elles sont expliquées et répétées. Finalement, elles servent de base à des exercices de prise de parole enregistrés, réécoutés et corrigés.				
授業の準備について	Lorsque le thème de la prochaine conversation est connu à l'avance, recherche de vocabulaire et d'expressions idiomatiques associées à ce thème.				
授業内容					
1	Saluer, se présenter		1	Expliquer un problème	
2	Parler de soi		2	S'informer sur un objet	
3	Parler des autres		3	Décrire un objet	
4	S'informer sur les personnes		4	Proposer une solution	
5	Décrire ses activités		5	Faire une réservation	
6	Comparer ses goûts		6	Informar sur des services	
7	Exprimer et comparer ses goûts		7	S'informer sur des services	
8	Proposer une activité		8	Expliquer	
9	Fixer un rendez-vous		9	Raconter	
10	Formuler un projet		10	Justifier	
11	Demander son chemin		11	Donner des consignes	
12	Indiquer un itinéraire		12	Annoncer un programme	
13	Décrire un lieu		13	Faire des prévisions	
14	Décrire un lieu imaginaire		14	Résumer une histoire	
15	Révision et préparation de l'examen		15	Révision et préparation de l'examen	
教科書	Documents personnels.				
評価方法	Système de contrôle continu: tests de vocabulaire et participation en classe sont notées. Ces notes comptent pour 50% de la note finale. A la fin de chaque semestre, il y a un examen dont le résultat compte pour 50% de la note finale.				
特記事項	Les étudiantes doivent garder à l'esprit que l'assiduité et la participation ont autant d'importance que le résultat à l'examen final.				

科目名	フランス・オラル 11b		担当者	アルベリック・ドリブル ヴァンサン・ピリウー	
コース・学年	仏語・2年	必・選	必	期間・単位数	通年・4
授業の目標	<p>今まで覚えて来た文法や単語を生かして、日常会話や観光に役に立つ表現を身に付けていきます。様々なシチュエーションでスムーズなフランス語で対応できる能力を養うのがこの授業の狙いです。SPIRALEの後半を使って会話をするだけでなく、リスニングを中心に出来た新しい教科書も使用します。会話をCDで聴いて、質問に答えます。単語説明や練習の後に、ディスカッションやロールプレイに挑戦します。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	だれかに会う、挨拶する	1	夏休みについて話す		
2	自分の好みや趣味について話す	2	葉書を書く		
3	交通手段について話す	3	道順を教える		
4	かかる時間、道順	4	道を尋ねる、教える(ロールプレイ)		
5	チケットを予約する	5	電話する(1)		
6	フランスで織する	6	電話する(2)		
7	会話作り	7	誘う(1)		
8	近い未来の計画、天気予報	8	誘う(2)		
9	食生活について話す	9	会話作り		
10	買い物する(1)	10	問題を解決する(1)		
11	買い物する(2)	11	問題を解決する(2)		
12	レストランでの会話	12	自分の意見を言う(1)		
13	会話作り	13	自分の意見を言う(2)		
14	EVALUATION	14	ミニ劇や映画		
15	試験準備と前期試験	15	試験準備と後期試験		
教科書	SPIRALE, Hachette (CD 付)、17-21 課まで Exercices d'oral en contexte, Niveau débutant – Hachette FLE				
評価方法	出席数や授業参加の熱意は、(50 %)、課題、ミニテスト、試験(50%)				
特記事項	教科書は2冊使いますので、必ず持ってきてください。				

科目名	仏語音声学 I a		担当者	エリック ボグナール	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	この授業の目的は、既に発音の基礎を学んだ学生が、フランス語の母音と子音の発音演習を繰り返すことによって、間違いを正し、正確で美しい発音ができるようにすることです。				
授業の準備について	eラーニングサイト francophone.jp にアクセスして、フランス語の読み方と発音練習の復習をして下さい。				
授業内容					
1	読方：入門 文字と発音の関係		1	発音：子音 P ～ B	
2	読方：入門 発声のしくみ		2	発音：子音 T ～ D	
3	読方：3文字 発音：母音 I ～ U		3	発音：子音 K ～ G	
4	読方：4文字 発音：母音 U ～ OU		4	発音：子音 S ～ CH	
5	読方：4文字 発音：母音 É ～ EU		5	発音：子音 Z ～ J	
6	読方：5文字 発音：母音 O ～ EU		6	発音：子音 B ～ V	
7	読方：5文字 発音：母音 U ～ EU		7	発音：子音 F ～ V	
8	読方：6文字 発音：母音 EU ～ OU		8	発音：子音の組み合わせ (1)	
9	読方：6文字 発音：口母音のまとめ		9	発音：子音の組み合わせ (2)	
10	読方：7文字 発音：鼻母音のしくみ		10	発音：L/R の発音 (1)	
11	読方：7文字 発音：母音 ON ～ AN		11	発音：L/R の発音 (2)	
12	読方：8文字 発音：母音 AN ～ IN		12	発音：L/R の組み合わせ (1)	
13	読方：9文字 発音：鼻母音のまとめ		13	発音：L/R の組み合わせ (2)	
14	読方：10文字 発音：半母音		14	発音：3つの子音の組み合わせ	
15	まとめ		15	まとめ	
教科書	プリントを配布します。				
評価方法	単語や短い文のディクテ、そしてヘッドフォンで行う発音練習は毎週成績をつけます。これは学期末の評価の50%に反映され、残りの50%は試験によって評価されます。				
特記事項	期末試験が評価の50%だけなので、毎週の成績、全体的な上達、熱意などはとても重要です。				

科目名	仏語音声学 I b			担当者	エリック ボグナール	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必		期間・単位数	通年・2
授業の目標	この授業の最初の目的はフランス語の音と文字の関係を身につけることです。 次の目的は、できるだけきれいな発音をすることです。					
授業の準備について	e ラーニングサイト francophone.jp にアクセスして、フランス語の読み方の基本を意識しながら読み方の復習をしてください。発音練習の復習をして下さい。					
授業内容						
1	読方：入門 文字と発音の関係		1	発音：子音 P ～ B		
2	読方：入門 発声のしくみ		2	発音：子音 T ～ D		
3	読方：3文字 発音：母音 I ～ U		3	発音：子音 K ～ G		
4	読方：4文字 発音：母音 U ～ OU		4	発音：子音 S ～ CH		
5	読方：4文字 発音：母音 É ～ EU		5	発音：子音 Z ～ J		
6	読方：5文字 発音：母音 O ～ EU		6	発音：子音 B ～ V		
7	読方：5文字 発音：母音 U ～ EU		7	発音：子音 F ～ V		
8	読方：6文字 発音：母音 EU ～ OU		8	発音：子音の組み合わせ (1)		
9	読方：6文字 発音：口母音のまとめ		9	発音：子音の組み合わせ (2)		
10	読方：7文字 発音：鼻母音のしくみ		10	発音：L/R の発音 (1)		
11	読方：7文字 発音：母音 ON ～ AN		11	発音：L/R の発音 (2)		
12	読方：8文字 発音：母音 AN ～ IN		12	発音：L/R の組み合わせ (1)		
13	読方：9文字 発音：鼻母音のまとめ		13	発音：L/R の組み合わせ (2)		
14	読方：10文字 発音：半母音		14	発音：3つの子音の組み合わせ		
15	まとめ		15	まとめ		
教科書	プリントを配布します。					
評価方法	単語や短い文のディクテ、そしてヘッドフォンで行う発音練習は毎週成績をつけます。これは学期末の評価の50%に反映され、残りの50%は試験によって評価されます。					
特記事項	期末試験が評価の50%だけなので、毎週の成績、全体的な上達、熱意などはとても重要です。					

科目名	仏語音声学 II		担当者	エリック ボグナール	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	この授業の目的は、①フランス語の発音の基礎を学んだ学生に、リズム、ストレス、イントネーションの特徴を身につけさせること、②やや難しいテキストの聞き取り、書き取りトレーニングです。				
授業の準備について	http://www.caritas.ac.jp/php/bognar_php/futsugo_onseigaku2/index.php という URL にアクセスして、発音と聞き取りの練習をして下さい。				
授業内容					
1	音節について		1	ストレスパターン1	
2	イントネーション1		2	ストレスパターン2	
3	リエゾン		3	リエゾンとアンシェヌマン1	
4	アンシェヌマン		4	リエゾンとアンシェヌマン2	
5	エリズィオン		5	リエゾンとアンシェヌマン3	
6	疑問文のイントネーション		6	任意リエゾン1	
7	驚き、やる気のイントネーション		7	任意リエゾン2	
8	いろいろなイントネーション1		8	アンシェヌマンヴォカリック1	
9	いろいろなイントネーション2		9	アンシェヌマンヴォカリック2	
10	アンシェヌマン1		10	間投詞1	
11	アンシェヌマン2		11	間投詞2	
12	アンシェヌマン3		12	くだけた発音1	
13	話す速さ1		13	くだけた発音2	
14	話す速さ2		14	くだけた発音3	
15	試験のための復習		15	試験のための復習	
教科書	プリントを配布します。				
評価方法	単語や短い文のディクテ、そしてヘッドフォンで行う発音練習は毎週成績をつけます。これは学期末の評価の50%に反映され、残りの50%は試験によって評価されます。				
特記事項	期末試験が評価の50%だけなので、毎週の成績、全体的な上達、熱意などはとても重要です。				

科目名	フランス語演習 I a			担当者	石上 亜紀子	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必		期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>多くの練習問題を解くことによって、実用フランス語技能検定試験準2級合格を目指します。毎回の授業で筆記問題と聞き取り問題を行うことによって、フランス語を読む、書く、聞く実力を身に着けます。</p> <p>また仏検の過去問題ばかりでなくさまざまな練習問題を行うことによって、多角的にフランス語を学び総合的なフランス語能力の向上を目指します。</p>					
授業の準備について	毎回小テストと宿題があるので準備してください。					
授業内容						
1	実力確認テスト		1	夏休みあけテスト		
2	実力確認テスト答え合わせ		2	代名詞問題・書き取り聞き取り問題		
3	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		3	代名詞問題・書き取り聞き取り問題		
4	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		4	代名詞問題・書き取り聞き取り問題		
5	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		5	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
6	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		6	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
7	語彙問題・書き取り聞き取り問題		7	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
8	語彙問題・書き取り聞き取り問題		8	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
9	語彙問題・書き取り聞き取り問題		9	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
10	動詞問題・書き取り聞き取り問題		10	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
11	動詞問題・書き取り聞き取り問題		11	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
12	動詞問題・書き取り聞き取り問題		12	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
13	動詞問題・書き取り聞き取り問題		13	総合問題練習		
14	代名詞問題・書き取り聞き取り問題		14	総合問題練習		
15	前期のまとめ		15	後期のまとめ		
教科書	『《データ本位》でる順仏検単語集 5級～2級準備レベル』久松健一著 駿河台出版社 そのほかプリントを配布します。					
評価方法	小テスト 50% 定期テスト 50%					
特記事項	1年間の間に必ず仏検を受験するようにしてください。準2級に合格した学生には、2級の対応もします。 最初の授業でテストをしますが、効果的な授業するために学生のレベルを知るためのものですので、事前の勉強は必要ありません。					

科目名	フランス語演習 Ib			担当者	各務 奈緒子	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必		期間・単位数	通年・2
授業の目標	フランス語文法 Ib の授業で学ぶ文法事項を整理・復習しながら、練習問題を解き、初級文法の基礎を固め、知識を定着させることを目的とする。また語彙や熟語、表現なども身につけることを目指す。後期はフランス語検定試験の対策も行う予定。					
授業の準備について	フランス語文法 Ib の授業で習った項目を各自復習し、練習問題を必ずやって授業にのぞむこと。					
授業内容						
1	アルファベと読み方、綴り字記号		1	所有代名詞・過去分詞		
2	名詞・冠詞・主語人称代名詞		2	直説法複合過去		
3	avoir/être の直説法現在		3	受動態		
4	指示の表現・形容詞		4	直説法半過去・直説法大過去		
5	疑問文の作り方		5	中性代名詞		
6	-er 動詞の活用・否定文		6	直説法単純未来・直説法前未来		
7	前置詞と定冠詞の縮約・数量副詞		7	関係代名詞（1）・仏検対策（1）		
8	まとめいち①		8	まとめ③		
9	疑問形容詞・疑問副詞		9	関係代名詞（2）・仏検対策（2）		
10	-ir 動詞の活用・疑問代名詞		10	現在分詞・ジェロンディフ・非人称		
11	近接未来・近接過去		11	条件法現在		
12	形容詞、副詞、名詞の比較級・最上級		12	条件法過去		
13	命令法・指示代名詞・準助動詞		13	直接話法と間接話法		
14	補語人称代名詞・代名動詞		14	接続法現在・接続法過去		
15	まとめ②		15	まとめ④		
教科書	カリタス女子短期大学仏語科編『話せる読めるフランス語文法』駿河台出版社					
評価方法	前期・後期の中テスト及び期末テスト：90% 宿題などへの取り組み：10%					
特記事項	フランス語文法 Ib 使用の教材を持参してください。					

科目名	フランス語演習 II a			担当者	石上 亜紀子	
コース・学年	仏語・2年	必・選	必		期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>多くの練習問題を解くことによって、実用フランス語技能検定試験 2 級合格を目指します。毎回の授業で筆記問題と聞き取り問題を行うことによって、フランス語を読む、書く、聞く実力を身に着けます。</p> <p>また仏検の過去問題ばかりでなくさまざまな練習問題を行うことによって、多角的にフランス語を学び、総合的なフランス語能力の向上を目指します。</p>					
授業の準備について	毎回小テストと宿題があるので準備してください。					
授業内容						
1	実力確認テスト		1	夏休みあけテスト		
2	実力確認テスト答え合わせ		2	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
3	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		3	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
4	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		4	長文穴埋め問題・書き取り聞き取り問題		
5	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		5	対話文問題・書き取り聞き取り問題		
6	前置詞問題・書き取り聞き取り問題		6	対話文問題・書き取り聞き取り問題		
7	語彙問題・書き取り聞き取り問題		7	対話文問題・書き取り聞き取り問題		
8	語彙問題・書き取り聞き取り問題		8	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
9	語彙問題・書き取り聞き取り問題		9	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
10	語彙問題・書き取り聞き取り問題		10	長文正誤問題・書き取り聞き取り問題		
11	動詞問題・書き取り聞き取り問題		11	会話文問題・書き取り聞き取り問題		
12	動詞問題・書き取り聞き取り問題		12	会話文問題・書き取り聞き取り問題		
13	動詞問題・書き取り聞き取り問題		13	総合問題練習		
14	動詞問題・書き取り聞き取り問題		14	総合問題練習		
15	前期のまとめ		15	後期のまとめ		
教科書	『〈仏検 2 級対応〉でる順仏検単語集』久松健一著 駿河台出版社 そのほかプリントを配布します。					
評価方法	小テスト 50% 定期テスト 50%					
特記事項	1 年間の間に必ず仏検を受験するようにしてください。 最初の授業でテストをしますが、効果的な授業するために学生のレベルを知るためのものですので、事前の勉強は必要ありません。					

科目名	フランス語演習 II b			担当者	各務 奈緒子（前）・稲葉 延子（後）	
コース・学年	仏語・2年	必・選	必		期間・単位数	通年・2
授業の目標	1年生で学んだ文法事項をもとに、様々な演習問題に触れ、より幅広いフランス語力の定着を図る。授業では、毎回語彙、表現の小テストを行い、動詞・長文読解、聞き取りの力をつける。全員が実用フランス語検定3級以上の資格取得を目標とし、後期後半は準2級へ向けて学んでいく。					
授業の準備について	一年次に勉強した文法を各自復習し、毎回の小テストの勉強、また宿題の練習問題を必ずやって授業にのぞむこと。					
授業内容						
1	動詞（1）		1	代名詞（6）		
2	動詞（2）		2	代名詞（7）		
3	動詞（3）		3	単語並べかえ（1）		
4	動詞（4）		4	単語並べかえ（2）		
5	動詞（5）		5	単語並べかえ（3）		
6	動詞（6）		6	単語並べかえ（4）		
7	動詞（7）		7	単語並べかえ（5）		
8	動詞（8）		8	動詞句（1）		
9	動詞（9）		9	動詞句（2）		
10	代名詞（1）		10	長文読解（1）		
11	代名詞（2）		11	長文読解（2）		
12	代名詞（3）		12	長文読解（3）		
13	代名詞（4）		13	長文読解（4）		
14	代名詞（5）		14	長文読解（5）		
15	まとめ		15	まとめ		
教科書	富田正二著 『完全予想仏検3級 一筆記問題編一』 駿河台出版社 富田正二著 『完全予想仏検3級 一聞き取り問題編一』 駿河台出版社					
評価方法	前期・後期の期末テスト：50% 毎回の小テスト50%					
特記事項	春季、秋季の仏検をどちらか一回は受験するようにしてください。					

科目名	フランス語文法 I a		担当者	樋口 仁枝	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年 2
授業の目標	<p>既習者対象のクラスであるが、レベルの個人差があり、それぞれ未消化の部分を抱えているので、まず各自が弱い部分を自覚し、文法の総復習をする。その上で問題を解いたり、話語も含めてさまざまな文例に接しながら文法の応用に向かい、フランス語を幅広く体系的に理解する。</p> <p>特に種類が多く複雑な叙法と時制についてはこれまでより深く学び、ニュアンスに富む豊かな表現に慣れ、理解力を高めることを目指す。</p> <p>フランス語文法を通して、フランス語そのものへの関心を高める。</p>				
授業の準備について	予習復習をする。				
授業内容					
1	フランス語の話 文法要点 (1)		1	前期テスト解説 文法要点 (2)	
2	Leçon 1 名詞		2	Leçon 6 直説法現在 複合過去	
3	Leçon 1 品質形容詞		3	Leçon 6 半過去 大過去	
4	Leçon 2 不定冠詞		4	Leçon 6 単純未来 前未来	
5	Leçon 2 部分冠詞、定冠詞		5	Leçon 6 単純過去 前過去	
6	復習 小テスト1		6	復習 小テスト1	
7	Leçon 3 不定形容詞		7	Leçon 7 条件法	
8	Leçon 3 その他の形容詞		8	Leçon 7 接続法	
9	Leçon 4 人称代名詞		9	Leçon 8 現在分詞 ジェロンディフ	
10	Leçon 4 中性代名詞		10	Leçon 9 文のタイプ	
11	復習 小テスト2		11	復習 小テスト2	
12	Leçon 5 不定代名詞		12	Leçon 10 複文	
13	Leçon 5 関係代名詞		13	Leçon 10 話法	
14	総合問題 I		14	総合問題 I I	
15	期末テスト		15	期末テスト	
教科書	窪川英水 『現代フランス中級文法』 第三書房				
評価方法	小テスト40% 期末テスト60%				
特記事項					

科目名	フランス語文法 Ib		担当者	北垣 潔	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>初めてフランス語を学ぶ学生を対象として、フランス語理解の根幹となる文法を一から学んでいく。授業は基本事項の文法説明、各項目に沿った練習問題の順に進めていく。</p> <p>フランス語文法の基礎全体を見渡す事を目標とするが、特に動詞の活用を軸にして、なるべく多くの文章に触れそれを覚えていきながら理屈での理解の他に、形からの体得も目標としたい。</p> <p>また、慣れて来たところで、毎回いくつか動詞を選び、最低限直説法現在の活用を覚えていく。(前期・後期それぞれ10回ずつ動詞の活用、ないしは学んだ文法事項に関する小テストを行う予定)</p> <p>また、途中で理解しきれていない箇所もあるかと思うので、出来る限り学生の状況を見極めながら時間の許す限り復習を兼ねて練習問題を解いていくことが出来ればと考えている。</p>				
授業の準備について	毎回の予習復習を欠かさないこと。				
授業内容					
1	名詞の性と数、数、曜日		1	直説法単純未来、前未来、所有代名詞	*
2	冠詞(縮約)、提示の表現		2	直説法半過去、大過去	
3	フランス語の形容詞	*	3	人称代名詞① 直接目的語	*
4	基本動詞① être、avoir	*	4	人称代名詞② 間接目的語	*
5	基本動詞② 規則動詞-er、-ir	*	5	代名動詞①	*
6	aller,venirの活用と近接未来・近接過去、否定文	*	6	代名動詞②および非人称構文	*
7	中間のまとめと疑問文		7	副詞的代名詞 en, y、中性代名詞 le	*
8	指示形容詞、所有形容詞、指示代名詞	*	8	中間のまとめと不定法構文	
9	比較級、最上級	*	9	現在分詞、ジェロンディフ	*
10	否定疑問文、疑問副詞	*	10	過去分詞、条件法①	*
11	疑問代名詞、疑問形容詞	*	11	条件法②	*
12	複合過去と受動態	*	12	接続法①	
13	関係代名詞① qui, que, dont, où	*	13	接続法②	*
14	関係代名詞② 前置詞と一緒に使うもの		14	話法	
15	まとめ		15	まとめ	
教科書	プリントを配布する。				
評価方法	前期：小テスト 20%、中テスト 40%、期末試験 40% 後期：小テスト 20%、中テスト 40%、期末試験 40%				
特記事項	上記の年間の授業内容で、*印のある回は動詞の活用、ないしは学んだ文法事項の小テストを予定している。				

科目名	フランス語文法 I I a		担当者	樋口 仁枝	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年 2
授業の目標	フランス語文法の勉強は何年学んでも、また学ぶほどに新しい疑問にぶつかる。動詞の法や時制、冠詞、代名詞など、フランス語特有の難しい項目があるので、それらを重点的にくわしくていねいに学ぶ。謎を解き、理解を深めることによって苦手意識を克服し、自信をつけ、文法力全体のレベルアップを図る。応用として各課毎に20世紀の文学作品の引用を読むが、それに加えて、生きた内容を持つ日常的なフランス語の文例にも接し、文法を理論的なことばの規則だけにとどめず、実際のコミュニケーションに結びつける。				
授業の準備について	予習復習をする。				
授業内容					
1	フランス語の話、 授業の方針など		1	前期テスト解説 復習	
2	L e ç o n 1 条件法		2	L e ç o n 6 不定形容詞	
3	L e ç o n 1 条件法		3	L e ç o n 6 不定形容詞	
4	L e ç o n 1 条件法 version		4	documents authentiques	
5	L e ç o n 2 接続法		5	L e ç o n 7 不定代名詞	
6	L e ç o n 2 接続法		6	L e ç o n 7 不定代名詞	
7	L e ç o n 2 接続法 version		7	まとめ documents authentiques	
8	まとめ documents authentiques		8	L e ç o n 8 接続詞の que	
9	L e ç o n 3 代名動詞		9	L e ç o n 8 接続詞の que	
10	L e ç o n 3 代名動詞		10	L e ç o n 9 否定	
11	L e ç o n 4 関係代名詞		11	L e ç o n 9 否定	
12	L e ç o n 5 関係代名詞		12	L e ç o n 10 冠詞	
13	L e ç o n 5 中性代名詞		13	L e ç o n 10 冠詞	
14	L e ç o n 5 中性代名詞		14	総合練習問題	
15	期末テスト		15	期末テスト	
教科書	山田秀男 『新中級フランス文法』 駿河台出版社				
評価方法	小テスト40% 期末テスト60%				
特記事項					

科目名	フランス語文法 IIb			担当者	北垣 潔
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>最初の数回は、1年時に扱えなかった、あるいは詳しく説明がされていないと思われる項目（単純過去、前過去など）の説明と、主に動詞を中心に復習を兼ねながら授業を進めていく。その後で、これまで学んだ内容の応用として、教科書に即し実際のフランス語の中で文法がどのように機能しているかを見ていこうと考える。教科書の全てを扱わず、学生にとって難しいがフランス語を読み解いていくには欠かす事の出来ない点を中心に、それらを時間をかけて説明した結果、個々の理解が深まってくれればと考える。</p>				
授業の準備について	毎回の予習復習を欠かさないこと。				
授業内容					
1	時制 (1) 単純過去、前過去	1	代名動詞 (1)		
2	時制 (2) 条件法 (復習)	2	代名動詞 (2)		
3	時制 (3) 接続法 (復習)	3	現在分詞		
4	関係代名詞 (1) qui, que dont, où (復習)	4	ジェロンディフ		
5	関係代名詞 (2) 前置詞+関係代名詞 (復習)	5	過去分詞、絶対分詞節		
6	直接法現在	6	否定文 (1)		
7	複合過去と半過去	7	否定文 (2)		
8	単純未来と前未来	8	目的補語 (1)		
9	直接法の過去未来と過去前未来	9	目的補語 (2)		
10	時の照応、および話法	10	副詞的代名詞、中性代名詞		
11	条件法 (1)	11	冠詞		
12	条件法 (2)	12	様々な文章 (1)		
13	接続法 (1)	13	様々な文章 (2)		
14	接続法 (2)	14	様々な文章 (3)		
15	纏め	15	纏め (2)		
教科書	秋山晴夫ほか著『中級フランス文法』第三書房				
評価方法	前期：期末試験 100% 後期：期末試験 100%				
特記事項	教科書の内容は難しいですが、本物のフランス語を理解するには避けて通れないのが文法の深い理解です。最後まで諦めず、わからない箇所は何度も復習してもう一つ上のステップに上れるよう一緒にがんばりましょう。				

科目名	フランス語講読 I a		担当者	大須賀 沙織	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	フランス語初級文法をひとつおりのり終えた学習者を対象に、長文テキストを読む訓練を行います。フランスの英雄であり聖女であるジャンヌ・ダルクの生涯を描いたテキストを読みます。みなさんに訳してもらい、文法事項の確認、内容の解説を行いながら授業を進めていきます。一つの作品を読み終えることで、みなさんの自信となり、次の作品を自分の力で読んでいくステップとなることを目指します。				
授業の準備について	毎回必ず予習してきてください。辞書を引き、訳文を考えてきてください。				
授業内容					
1	オリエンテーション		1	テキストを読む(13)	
2	テキストを読む(1)		2	テキストを読む(14)	
3	テキストを読む(2)		3	テキストを読む(15)	
4	テキストを読む(3)		4	テキストを読む(16)	
5	テキストを読む(4)		5	テキストを読む(17)	
6	テキストを読む(5)		6	テキストを読む(18)	
7	テキストを読む(6)		7	テキストを読む(19)	
8	テキストを読む(7)		8	テキストを読む(20)	
9	テキストを読む(8)		9	テキストを読む(21)	
10	テキストを読む(9)		10	テキストを読む(22)	
11	テキストを読む(10)		11	テキストを読む(23)	
12	テキストを読む(11)		12	テキストを読む(24)	
13	テキストを読む(12)		13	テキストを読む(25)	
14	期末テスト		14	期末テスト	
15	テストの解説、まとめ		15	テストの解説、まとめ	
教科書	Danielle Netter, <i>Jeanne d'Arc</i> 『ジャンヌ・ダルク』、駿河台出版社				
評価方法	平常点(出席、予習状況、訳読の出来具合)30% 期末テスト70%				
特記事項	仏和中辞典を持参すること。				

科目名	フランス語講読 I b		担当者	稲葉 延子	
コース・学年	仏語・1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>「フランス語文法 I」ならびに「フランス語演習 I」で学んだ基礎知識を用いて、フランス語で書かれた文章を読めるようにする。また辞書の使い方も同時に学ぶ。</p> <p>会話体のは、なるだけ暗誦して、使えるように。CD教材を大いに活用すること。</p> <p>また文章の動詞を見つけて、文の構造をつかむ訓練をする。後期は、長文読解にも慣れるように、プリント教材も使用する。</p> <p>なお、下記に記した進度は、文法や演習の進度と足並みをそろえて行くので、多少の変更はある。また、この教科書に記された文法の説明は省くこともあるので注意。</p> <p>Civilisation と題された長文は、授業時間内である程度触れたら、残りは長期休暇中の課題とする。</p>				
授業の準備について	<p>「フランス語文法 I b」の教材を常にもってきて、文法項目の確認に役立てること。</p> <p>指示された箇所の予習はすませて授業に臨むこと。</p>				
授業内容					
1	Unité 1		1	プリント 長文読解	
2	Unité 2		2	Unité 7	
3	Unité 2		3	Unité 7	
4	Unité 3		4	Unité 7	
5	Unité 3		5	Unité 8	
6	Unité 4		6	Unité 8	
7	Unité 4		7	Unité 8	
8	Unité 5		8	Unité 9	
9	Unité 5		9	Unité 9	
10	Unité 5		10	Unité 9	
11	Unité 6		11	Unité 10	
12	Unité 6		12	Unité 10	
13	Unité 6		13	Unité 10	
14	期末テスト		14	期末テスト	
15	まとめ		15	まとめ	
教科書	Bis Amicalement プリント教材				
評価方法	小テスト（単語・暗誦）30% 中テスト（長文）20% 期末テスト 50%				
特記事項	自分の辞書（仏和中辞典）を教室にもってこること。				

科目名	フランス語講読Ⅱ A			担当者	伊藤 直
コース・学年	仏語・2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>一年次で学んだフランス語を基に、時事的なフランス語の文章を読んでいきます。精確にフランス語を読むことに加えて、フランスの現代史や政治、社会、文化に関する知識を得ることも目標とします。</p>				
授業の準備について	<p>教科書と辞書を毎回必ず持参してください。授業の予習や授業内小テストの準備もおこなってください。</p>				
授業内容					
1	授業の進め方・教育に関する時事文(1)	1	服飾に関する時事文(1)		
2	教育に関する時事文(2)	2	服飾に関する時事文(2)		
3	日仏関係に関する時事文(1)	3	社会問題に関する時事文(1)		
4	日仏関係に関する時事文(2)	4	社会問題に関する時事文(2)		
5	政治に関する時事文(1)	5	フランスの領土に関する時事文(1)		
6	政治に関する時事文(2)	6	フランスの領土に関する時事文(2)		
7	在仏日本人に関する時事文(1)	7	芸術に関する時事文(1)		
8	在仏日本人に関する時事文(2)	8	芸術に関する時事文(2)		
9	経済に関する時事文	9	宗教・政治に関わる時事文		
10	音楽に関する時事文	10	食文化に関わる時事文		
11	郊外問題に関する時事文	11	教育問題に関する時事文		
12	飲食に関する時事文	12	文化に関する時事文		
13	文化・産業に関する時事文	13	社会に関する時事文		
14	フランコフォニーに関する時事文	14	フランコフォニーに関わる時事文		
15	前期のまとめ	15	後期のまとめ		
教科書	加藤晴久、ミシェル・サガズ編『時事フランス語 2011 年度版』朝日出版社				
評価方法	授業内小テストを含めた授業中の出来具合(20%) + 期末試験(80%)				
特記事項					

科目名	フランス語講読 II B		担当者	佐藤 久仁子	
コース・学年	2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>この授業では、パリにあるルーブルやオルセー美術館をはじめとする幾つかの美術館を紹介したテキストを用い、フランスの美術文化についての知識を広げながらフランス語の学習をしていきます。会話文を練習するとともに、ある程度のまとまった文章を読む力もつけていきます。また、これまでにすでに学習してきた文法についても、復習をしながら再確認と定着をはかります。</p> <p>興味に応じて、美術以外の、食べ物、ファッション、歌など、様々な文化についても簡単な関係記事を読んでいきたいと思えます。</p> <p>その他、実用フランス語検定試験に向けた対策にも学習の中で取り組んでいきます。</p>				
授業の準備について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書と教科書を必ず持参してください。 ・毎回、予習と復習をして授業に参加してください。 ・テストの準備については随時、各自で行ってください。 				
授業内容					
1	ガイドランス・日本の中のフランス語	1	ジャックマール・アンドレ美術館(1) 動詞②・非人称構文		
2	ルーブル美術館(1) 名詞・冠詞①	2	ジャックマール・アンドレ美術館(2) 関係代名詞		
3	ルーブル美術館(2) 提示・疑問の表現	3	ザッキン美術館(1) 動詞③		
4	オルセー美術館(1) 代名詞①・否定文	4	ザッキン美術館(2) 比較級・最上級		
5	オルセー美術館(2) 形容詞①	5	モロー美術館(1) 動詞④		
6	オランジュリー美術館(1) 冠詞②	6	モロー美術館(2) 代名詞②		
7	オランジュリー美術館(2) 動詞①	7	まとめ(3)		
8	まとめ(1)	8	ロダン美術館(1) 代名動詞		
9	国立近代美術館(1) 疑問文	9	ロダン美術館(2) 代名詞③		
10	国立近代美術館(2) 形容詞②	10	ピカソ美術館(1) 過去形		
11	クリュニー美術館(1) 形容詞③	11	ピカソ美術館(2) 受動態		
12	クリュニー美術館(2) 命令形	12	文化関係記事の講読(3) 条件法・接続法		
13	文化関係記事の講読(1) 未来形	13	文化関係記事の講読(4) 直接話法・間接話法		
14	文化関係記事の講読(2) 現在分詞	14	文化関係記事の講読(5) 過去未来・大過去		
15	まとめ(2)	15	まとめ(4)		
教科書	藤田尊潮『やさしくミュゼでパリめぐり!』				
評価方法	テスト(ミニテストを含む)で90%、授業中の課題への取り組みで10%の評価をします。				
特記事項	授業内容は概要を示したものであり、仏検対策他、特別な学習を取り入れる場合において、変更する可能性があります。				

科目名	フランス語講読 IIC			担当者	柿崎 有美	
コース・学年	仏語・2年	必・選	必	期間・単位数	通年・2	
授業の目標	<p>主に文学・思想を内容とする作品の抜粋を扱い、フランス語文の読解、解釈を行います。基本的な文法事項を復習、整理しながら、正しく、また素早く構文を把握する力を養います。比較的平易な文章から始め、少しずつ高度なテキストの精読へとレベルを上げていきます。また予習の仕方、効率的な辞書の引き方なども指導します。</p> <p>テキストの内容と背景などの解説をしながら、フランス語で文学・思想作品を味わう面白さ、楽しさも発見してほしいと願っています。</p>					
授業の準備について	毎回の予習は必ずやってきてください。単語の意味を調べるだけでなく、主語と動詞の確認、動詞の法と時制をとらえておくと、テキストの内容がより深く理解できるはずです。					
授業内容						
1	オリエンテーション		1	カミュ(1)		
2	ボードレール (1)		2	カミュ(2)・Exercices 6		
3	ボードレール (2)・Exercices 1		3	カミュ(3)		
4	ボードレール (3)		4	カミュ(4)・Exercices 7		
5	ボードレール (4)・Exercices 2		5	カミュ(5)		
6	プレヴェール (1)		6	カミュ(6)		
7	プレヴェール (2)・Exercices 3		7	デカルト		
8	まとめ ①		8	まとめ ③		
9	サン＝テグジュペリ (1)		9	サルトル (1)		
10	サン＝テグジュペリ (2)・Exercices 4		10	サルトル (2)		
11	サン＝テグジュペリ (3)		11	サルトル (3)・Exercices 8		
12	サン＝テグジュペリ (4)・Exercices 5		12	読み物 (1)		
13	パスカル (1)		13	読み物 (2)		
14	パスカル (2)		14	読み物 (3)・Exercices 9		
15	まとめ ②		15	まとめ ④		
教科書	齋藤 広信、小幡 一雄 著 『読むことのたのしみ』 早美出版社					
評価方法	前期・後期中テスト及び期末テスト：90%、予習状況：10%					
特記事項						

科目名	フランス語作文 a			担当者	稲葉 延子	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2	
授業の目標	<p>基本構文を使いながら、フランス語表現の考え方を解説し、フランス語で手紙文や通常の文章を作文できるようにする。文章の構造を捉えながら、文法力を維持しつつ、フランス語で「書く」ことに慣れる。</p> <p>また、後期は、状況に即した、自由作文が書けるようにし、TCFなどの受験に対応できるようにする。</p> <p>仏和辞典以外の辞書類を使えるようにする。</p>					
授業の準備について	<p>予習は必ずして、授業に臨むこと。</p> <p>1年次に学んだ内容を常に復習しておくこと。</p>					
授業内容						
1	語彙と動詞の活用の復習			1	状況に即した自由作文 1	
2	仏作文の考え方 1			2	状況に即した自由作文 2	
3	仏作文の考え方 2			3	状況に即した自由作文 3	
4	仏作文の考え方 3			4	語彙と表現の復習	
5	語彙と動詞の活用の復習			5	状況に即した自由作文 4	
6	仏作文の考え方 4			6	状況に即した自由作文 5	
7	仏作文の考え方 5			7	状況に即した自由作文 6	
8	仏作文の考え方 6			8	語彙と表現の復習 中テスト	
9	語彙と動詞の活用の復習 中テスト			9	状況に即した自由作文 7	
10	仏作文の考え方 7			10	状況に即した自由作文 8	
11	仏作文の考え方 8			11	状況に即した自由作文 9	
12	仏作文の考え方 9			12	状況に即した自由作文 10	
13	まとめ			13	まとめ	
14	試験			14	試験	
15	解説			15	解説	
教科書	プリント					
評価方法	学年末テスト 60%、中テスト 30%、授業参加度 10%					
特記事項	仏和中辞典、「フランス語ハンドブック」を持参すること。					

科目名	フランス語作文 b		担当者	北垣 潔	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>一年生で学んだフランス語文法の知識をもとに、比較的簡単な文章から関係代名詞などを使った複雑な文章を作る方法を学んでいく。文法項目に沿った内容の教科書を使いながら、同時に文法の復習も行っていきたい。また、教科書の範囲だけでなく、類似する表現をなるべく多く学び、語彙も増やしていければと考える。</p> <p>毎回学んだ箇所の小テストを行う。</p>				
授業の準備について	前期、後期とも予復習を欠かさないこと。				
授業内容					
1	作文を始めるにあたって	1	関係代名詞(4)		
2	être を使って	2	関係代名詞(5)		
3	avoir を使って	3	命令法		
4	自動詞	4	大過去と半過去		
5	他動詞(1)	5	不定詞		
6	他動詞(2)	6	疑問副詞と疑問形容詞		
7	複合過去と単純未来	7	疑問代名詞		
8	代名動詞(1)	8	条件法(1)		
9	代名動詞(2)	9	条件法(2)		
10	非人称の il	10	間接話法		
11	比較の表し方	11	間接疑問		
12	関係代名詞(1)	12	接続法(1)		
13	関係代名詞(2)	13	接続法(2)		
14	関係代名詞(3)	14	接続法(3)		
15	纏め	15	纏め		
教科書	石井晴一著『初歩のテーマ』三修社				
評価方法	小テスト 30%、期末試験：70%				
特記事項					

科目名	フランス文学			担当者	北垣 潔	
コース・学年	仏語・1年	必・選	選	期間・単位数	通年・4	
授業の目標	<p>フランスの文化を理解する一手段として、約 1200 年に亘るフランス文学の流れを追う。先ず、歴史的背景を説明しながら、各時代の主要作家、作品を通して、フランスに於ける文学の多様性に触れたい。また、文学史上の重要事項を押さえながら、同時に社会や文化事象との関連にも言及できればと考える。</p> <p>前期はラテン語に代わってフランス語が文章語として使用され始めた時代から大革命で幕を閉じる 18 世紀までを扱う。特に、現在のフランス語にほぼ近い形を取り始めた 17 世紀の古典主義時代と 18 世紀啓蒙の時代を中心に話を進めたい。</p> <p>後期は、革命後の近代市民社会が成立した 19 世紀と二つの大戦を経験し、文学が既存の姿から大きく変貌を遂げる 20 世紀を扱う。特に 19 世紀に於いては、近代小説、近代詩を中心に、文学が読者層を拡大しながらいずこへ向かっていくかを瞥見し、20 世紀に於いては、実存主義を始めとする、人間そのもののあり方に対する新たな問いかけとしての文学や、シュルレアリスムやヌーヴォーロマンなど、文学の持つ形式や言語そのものに対して疑義を呈し、斬新な問いかけを繰り返す文学などを追ひ、更には他の芸術分野との関わりなどにも言及していく予定である。</p>					
授業の準備について	<p>前期は、次回講義をする時代・作家について、教科書の記述をよく読んでおくこと。 後期も前期と同様だが、特に発表の準備を早めにしておくこと。</p>					
授業内容						
1	ラテン語からフランス語へ		1	19 世紀 (1) 文化と社会		
2	中世から 16 世紀 (1)		2	19 世紀 (2) ロマン主義		
3	中世から 16 世紀 (2)		3	19 世紀 (3) 近代小説の誕生		
4	中世から 16 世紀 (3)		4	19 世紀 (4) 写実主義		
5	17 世紀 (1) 文化と社会		5	19 世紀 (5) 自然主義		
6	17 世紀 (2) バロック		6	19 世紀 (6) 近代詩の流れ		
7	17 世紀 (3) 近代思想の萌芽		7	19 世紀 (7) 世紀末		
8	17 世紀 (4) 古典主義とは コルネイユ		8	20 世紀 (1) プルースト、ジッド		
9	17 世紀 (5) ラシーヌ、モリエール		9	20 世紀 (2) サン＝テグジュペリ、マルロー		
10	18 世紀 (1) 文化と社会		10	20 世紀 (3) シュルレアリスム		
11	18 世紀 (2) ヴォルテール、モンテスキュー		11	20 世紀 (4) サルトル、カミュ		
12	18 世紀 (3) デイドロ、ルソー		12	20 世紀 (5) 20 世紀の演劇		
13	18 世紀 (4) サド、レチフ、ラクロ		13	20 世紀 (6) ニューヴォーロマン		
14	18 世紀 (5) 革命期の文学		14	フランス文学の現在		
15	纏め		15	纏め		
教科書	饗庭孝男、加藤民男編著『フランス文学史』(白水社)、及びプリントを配布					
評価方法	発表：30% 期末試験：70%					
特記事項						

科目名	フランス文学研究 A		担当者	北垣 潔	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・4
授業の目標	<p>17,18世紀の所謂古典主義の文学に触れる。先ず、古典主義の三大作家と称される、コルネイユ、ラシーヌ、モリエールが活躍した時代の状況、文学のあり方などについて解説を加え、学生各自にはこの三人の作家の作品の一つ取り上げ発表して貰う、その課程で、この時代の文学理論、文学と他の芸術との関わり、当時のパリ、貴族社会、庶民社会の様子などを見ていくことが出来ればと考える。その後、18世紀へと移り、前世紀とは違う方向へと向かっていくこの時代の古典主義の変容を考察したい。今年度は、この世紀の小説について考えてみる事にしたい。一般に19世紀が小説の世紀だと言われるが、日本語の翻訳紹介が少ないためあまり知られていない事だが、以外にも18世紀は多くの小説作品が書かれた。特に啓蒙の哲学者と言われる人たちはほぼ全て小説に手を染めていて、後世に残る名作も多い。その中でもフランス的エスプリの横溢したヴォルテールの短編を読み、現代の小説観とは趣を異にする小説世界に触れて、受講者の文学に対する視野を広げてもらえればと考えている。</p>				
授業の準備について	前期は、発表準備のための読書を早めに行い、後期は特に作品講読のための予習復習を欠かさないこと。				
授業内容					
1	フランス 17世紀-歴史的背景(1)-	1	ヴォルテールについて①その生涯と作品		
2	フランス 17世紀-歴史的背景(2)-	2	ヴォルテールについて②コント解説		
3	フランス-宮廷文化、サロン-	3	ヴォルテールのコント講読①		
4	バロックについて-美術-	4	ヴォルテールのコント講読②		
5	バロックについて-文学-	5	ヴォルテールのコント講読③		
6	古典演劇理論、映画『マルキーズ』鑑賞	6	ヴォルテールのコント講読④		
7	映画『マルキーズ』鑑賞	7	ヴォルテールのコント講読⑤		
8	古典主義作家—コルネイユ—	8	ヴォルテールのコント講読⑥		
9	古典主義作家—コルネイユ—	9	ヴォルテールのコント講読⑦		
10	古典主義作家—モリエール—	10	ヴォルテールのコント講読⑧		
11	古典主義作家—モリエール—	11	ヴォルテールのコント講読⑨		
12	古典主義作家—ラシーヌ—	12	ヴォルテールのコント講読⑩		
13	古典主義作家—ラシーヌ—	13	ヴォルテールのコント講読⑪		
14	映画『モリエール』鑑賞	14	ヴォルテールのコント講読⑫		
15	映画『モリエール』鑑賞	15	纏め		
教科書	プリントを用意する				
評価方法	前期：各自行った発表に関するレポート 100% 後期：期末試験 100%				
特記事項					

科目名	フランス文学研究 B		担当者	稲葉 延子	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・4
授業の目標	<p>時代としては、19世紀から21世紀までを扱い、ジャンルは思想も含め、小説・演劇・詩を扱う。特に、社会との関わりを中心に、作品のみならず、文学の流れや作家の動きを見て行く。他の分野（音楽・美術・哲学・心理学等）との繋がりも意識し学ぶ習慣を身につける。また、フランス国内に留まらず、現代思想が、フランス文学や文化に及ぼした影響を検証する意味で、現代思想にもふれる。さらには、フランス国内に限らず、フランス文学に影響を与えた、他の言語の世界にも視野をひろげる。メディア教材（DVD、インターネットなど）もできる限り使用し19世紀、20世紀という時代の把握につとめる。</p> <p>書いたレポートはお互いに読み、コメントする。共に学ぶ中で、多くの文学者を知り、自分にはない視点や考え方を学ぶことができよう。</p> <p>最終的には、一人の作家、ひとつの作品に関して語れるようになることを目的とする。</p>				
授業の準備について	<p>国語辞典（電子辞書可）を授業時に持参すること。 付箋を各自で準備すること。</p>				
授業内容					
1	フランス文学に関する知識の整理	1	発表		
2	自分の興味の方向性、ジャンル、時代、作家などを確認	2	テーマを決めてフランス映画をみる		
3	資料収集の方法、図書館利用の実際	3	テーマを決めてフランス映画をみる		
4	レポートの計画作成	4	テーマを決めて		
5	現代思想とフランス文学・文化	5	発表		
6	現代思想とフランス文学・文化	6	発表		
7	現代思想とフランス文学・文化	7	時代を語る		
8	発表	8	作家を語る		
9	発表	9	作品を語る		
10	発表	10	テーマで語る		
11	言語と作品	11	日本人とフランス文学		
12	思想と表現	12	レポート提出		
13	テーマを決めてフランス映画をみる	13	互いのレポートを読む		
14	テーマを決めてフランス映画をみる	14	レポートの講評		
15	レポート作成計画書	15	まとめ		
教科書	<p>現代思想ピープル 101 新書館 フランス文学史 1年次の「フランス文学」と同じ教科書 フランスを知る 1年次の「フランス語圏文化ⅠⅡ」と同じ教科書</p>				
評価方法	発表 30%、レポート 70%、他に、授業参加度を重視します。				
特記事項	お気に入りの作家や作品を語れるようになれば、どういう面接でも自己表現できるようになります。				

科目名	フランス語特別講座		担当者	北垣 潔	
コース・学年	仏語・2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>これまで学んできた文法事項を確認しながら、更に細部を追いながらフランス語の多様な姿を捉え、総合的なフランス語の力を養う。</p> <p>前期は、フランス語を学ぶ学生が克服すべき項目のいくつか（時制、関係代名詞、代名詞など）を復習しながら、同時に初級文法では詳しくは扱わない項目（不定代名詞、虚辞の ne、不定法、冠詞など）を学ぶ。</p> <p>後期は、前期の学習を踏まえて、比較的長めの文章に実際に触れ、読解力のノウハウを学ぶ。また、文章を理解する際に文法の理解が如何に重要かを実感してもらい、文章の細部について適切な文法説明が出来るようになることを目標とする。</p>				
授業の準備について	毎回の予習復習を欠かさないこと。				
授業内容					
1	時制 (1) 複合過去、半過去		1	長文読解 (1)	
2	時制 (2) 条件法		2	長文読解 (2)、小テスト	
3	時制 (3) 接続法		3	長文読解 (3)、小テスト	
4	話法		4	長文読解 (4)、小テスト	
5	関係代名詞 (1)		5	長文読解 (5)、小テスト	
6	関係代名詞 (2)		6	長文読解 (6)、小テスト	
7	関係代名詞 (3)		7	長文読解 (7)、小テスト	
8	不定法		8	長文読解 (8)、小テスト	
9	不定代名詞		9	長文読解 (9)、小テスト	
10	否定のあれこれ (虚辞の ne など)		10	長文読解 (10)、小テスト	
11	冠詞の理解		11	長文読解 (11)、小テスト	
12	様々な表現 (1)		12	長文読解 (12)	
13	様々な表現 (2)		13	長文読解 (13)	
14	纏め (1)		14	纏め (1)	
15	纏め (2)		15	纏め (2)	
教科書	プリントを配布				
評価方法	前期：期末試験 100% 後期：期末試験 100%				
特記事項					